

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	沓木 里栄	学校名	府中町立府中中学校
教科（科目）・領域	外国語（英語）	対象学年（人数）	1 年（ 219 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和 2 年 12 月 ～ 令和 3 年 1 月（1 2 時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：『Sunshine 1』 Program 5 国際フードフェスティバル（開隆堂）					
2. 実践する教科・領域： 外国語（英語）		3. 学習領域			
			1	2	3
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生
		B グローバル社会	相互依存	情報化	
		C 地球的課題	人権	環境	平和
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 日本食の特徴やSDGsとのつながりをわかりやすく英語で説明する「日本食SDGsポスター」を作成することを通して、海外とのつながりに気づき、食べ物を通して地球市民の一員だということを意識しこれからの行動について考えることができる。					
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	「This/That is～」 「場所を表す前置詞」「代名詞」を正確に使って日本食とSDGsとのつながりを紹介する「日本食SDGsポスター」を作成することができる。			
	②思考力、判断力、表現力等	日本食の特徴を他の国の料理と関連付けて、わかりやすくALTに説明することができる。			
	③学びに向かう力	各国に日本食に似た料理が存在することを知ると同時に、日本で当たり前になっている食材の原産国とその状況を知ることにより、自分たちの食生活が世界と切っても切れないことに気づき、食に対する自分たちのとるべき行動を考えることができる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 外国人と接する機会も増える中、日本食について英語で説明しなければならない場面も増えている。生徒たちはこの単元で「This/That is～」 「場所を表す前置詞」「代名詞（主格）」を学習する。それらの言語材料を使って簡単に日本食を外国人に説明できることを知らせたい。また、各国に日本食に似た料理が存在することを知り、それと関連付けて説明することでわかりやすくなることを実感させたい。さらに、食材の原産地を知ること、自分たちの食生活が世界と切っても切れないことを実感させ、SDGsの課題につながっていることを意識させたい。そのうえで、生徒たちが自分自身のとるべき行動を考えさせたい。 【生徒観】 生徒は、6月に総合的な学習の時間でSDGsの背景や概要を学び、17のゴールの内容についてはある程度理解している。その際に、今から始める小さな一歩として「わたしのSDGs宣言」を行っている。その中で、多かったのが「給食を残さない」「（食べ物の）好き嫌いをしない」などの食に関わるものだった。 宣言はしたものの、どのように行動に結び付けたらよいか、また、その課題が具体的にどのような背景にあるのか深く知らない生徒が多い。 一方で、自主勉強ノートに街で見つけたSDGsについて調べてきたり、関連ある内容をまとめてきたりする生徒もいる。また総合的な学習の時間に取り組んでいる防災や平和に関わる実行委員を募ると、どの分野でもクラスで4～5人は手を挙げ、行動したい、やってみたいと考			

えている生徒は多い。

【教材観】

この單元では、主人公のユキやタケシが国際フードフェスティバルに行き、インドのブースではビリヤニ、韓国のブースの前ではキンパについて「This/That is～」や「場所を表す前置詞」を使いながらその料理についての会話をしている。見た目がそれぞれ、焼き飯、巻きずしに似ていることから、国が違っても同じような食文化があることを学ぶことができる單元となっている。

また、2年生になるとWFPのcharity walkについて学ぶ單元もあり、その單元へのつながりも意識したい。

【指導観】

全てを教師が与えるのではなく、単元の最初に単元を貫く教材のテーマを提示し、生徒自身で課題を考え、決定し、そのまとめを英語で「日本食SDGs ポスター」に仕上げることをゴールとしたい。そのためにまず、海外の食文化と日本の食文化で似たものがあることを知ることを通して、食文化に興味を持たせたい。その後ALTの出身国であるフィリピンと日本のつながりや食事情について話を聞いたうえで、日ごろ当たり前前に食べている食材の原産国やその食材に関わるSDGsの課題について、カードゲームを通して気づかせたい。さらに、世界遺産になっている日本食だが、他国とのつながりの中で成り立っていることを認識し食のありがたさを実感すると同時に、日々の食生活がSDGsの課題とつながっていることを意識して、ポスターにまとめさせたい。

言語材料については、小学校の時に音声では導入済みである。そのため、音声での復習を行ったうえで文構造の確認と書くことに重点を置く。それらの言語材料を使って教科書にある表現をアレンジしながら、ポスターに使う英文を作成し、生徒自身が考えたことをまとめて書くことをゴールとしたい。

また本校では、單元ごとにラウンドシステムでの学習を取り入れている。本單元では、第1時をlistening roundとし、写真での導入と同時に本文を聞き概要を把握することで、日本食と似た料理があることを知り単元を貫く目標である「日本食SDGs ポスター」作成への興味付けをしたい。その後、reading roundで内容を読み込んだ後、「日本食SDGs ポスター」の内容について個人個人で内容を決定させたい。

7. 単元計画（全 12 時間）

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース 活用はここに記載
1	単元の内容の概要を知り、ゴールへの見通しを持つ	- 世界の料理クイズから日本食に似た料理があることを知る -Where is this food from? - - 本文を聞き取り、概要を把握する。 (Listening round 1)	写真  

2	フィリピンの食事や食糧事情, SDGs に関わる課題についての話を聞き, 日本食との共通点, 食材の調達状況, について知る。	- ALT の出身国であるフィリピンに関わるクイズに取り組む。  - 聞き取った話から, SDGs のつながりについて考えたことをワークシートに書く。 - ワークシートに新しく知ったこと, 考えたことを書く。 	ALT 写真 
3 本時	日本食と SDGs のつながりについて考える	- どんな日本食があるか言い合う。 - 日本食と SDGs の 17 のゴールとのかかわりについてカードゲームを通して考える。 - 紹介したい日本食を考える。	『Mundi』2020 年 1 月号 P8~25 『Mundi』2016 年 1 月号 P4~15 『Mundi』2020 年 1 月号 P6~7 『どうなってるの? 世界と日本』
4	本文の内容を詳しく聞き取り, ポスターに使える表現を考える	単元の内容を聞き取る (Listening Round 2)	
5~6	本文の内容を読み込み, ポスターに使いたい表現を考える	単元の内容を読み込む (Reading Round)	
7	This/That の用法について理解する	- This/That の概念について理解し, This/That を使って仲間とやり取りし, 使えるようになる。 - This/That を使って, 3文で日本食について説明する。	
8	Where 及び場所を表す前置詞の用法について理解する。	- Where と前置詞について理解し, Where と前置詞を使って仲間とやり取りし, 使えるようになる。 - 前時の This/That に加えて, 前置詞を使って食材の原産地を付け加えて, 日本食について説明する。	
9	内容が伝わるように音読できるようになる	単元の内容の音読練習をする (Speaking Round)	
10~11	日本食 SDGs ポスターを作成する	7時と8時で作った英文を生かして, ポスターの下書きをする。 - 日本食ポスターを仕上げる。	
12	相互評価を行い, これからの SDGs に関わる自分自身の行動指針をまとめる	生徒同士でポスターを相互評価する。	

8. 本時の展開 (概略) 本時のねらい: 日本食が SDGs の課題とつながっていることを積極的に学び, ポスターとして紹介する日本食の SDGs 的課題を考えることができる。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)

導入 (10 分)	Greeting Warm up ① Sing a song ② 前時の振り返り What did you study last time? -Food in Philippine. -ALT から聞いた内容の単語を言う。		
展開 (33 分)	めあての確認 日本食と SDG s のつながりを発見しよう -Let's try card game. 1) Please work in the group with 3 or 4 students. 2) I will pass the set of the cards; They have five color cards in it. Yellow is food card, green is ingredient(材料), red is data card, blue is country card, and SDGs goal card. 3) Please think and collect 5 different color cards with one food. -Work in the group(15') -Check in the class(15') -Let's share the impression and new ideas through the game.(3')	どちらにも当てはまると迷っていたら -Please think the best answer.	
まとめ (5 分)	-Let's write the idea sheet about your Japanese food SDGs poster. 埋められないところは、日本語で調べてくる。		
振り返り (2 分)	-Please write what you study and think today's lesson on the reflection card. - 好きな日本食についてほかの国とのつながりを調べてみようと思った。 - ほかの国とのつながりがないといつも食べている食事が食べられないことがわかった。 - 日本食とほかの国とのつながりをポスターで知らせたい。		ワークシート
9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法) ワークシートの記述により評価 - 日本食が SDG s の課題とつながっていることを積極的に学び、ポスターとして紹介する日本食の SDG s 的課題を発見している—A - 本時の活動から食における日本と他の国とのつながりについて新たな発見をしている—B - 本時の活動に参加している—C			

10. 学習方法および外部との連携

学習方法

・本校に派遣されている ALT がフィリピン出身のため、今まで直接学ぶことができなかったフィリピンについて詳しく学ばせたいと考えた。同時にフィリピンと日本のつながり、さらには食料における関係性を紹介することで、本単元への関心を高められると考えた。

・題材として専門用語も多く中学 1 年生には難しいとも思ったが、ALT の英語なら聞こうとする生徒が多いため、写真を多く使うことで考えるヒントを多く与え挑戦させることとした。また、ALT からの一方的な語りではなく、生徒に知ってほしい事柄について 3 択のクイズとし、英語を聞く必然性を生み出せるようにした。

・学習の質を高めるため、生徒自身の希望をベースとしたペアを決めており、まずはその 2 人で活動を行う。教師がすぐに答えを与えるのではなく、まずそのペアで考えお互いに学びあう環境ができている。考えを深める場面では、そのペア 2 つを合体させ 3～4 人班とし、より多くのアイディアを交流できるようにする。これにより、一人で学ぶのでは発表できない生徒が数多く発表できるようになったり、多くの意見を交換することから新しいアイディアを生み出すことができる。そのペアやグループを本単元でも最大限に活用していきたい。

・食べ物と SDG s のつながりについて、ゴール 2 やゴール 13 については思いつくのだが、その原因まで考えが及んでいない生徒がほとんどである。写真などをこちらで用意してそれを料理と結び付けることで新しい視点を持たせたい。

※単元実施や活動に向けて、関わった人(ゲストティーチャーなど) や関係機関先があれば、連携に至る背景や、連携による効果、学びの深まりなどとあわせて記入してください。

※ゲストティーチャーや教師、学習者同士の関係性として重視したことがあれば記入してください。特にアクティビティのような学習者同士の交流が生まれる学習方法・技法を用いる場合は、その意図や効果を記入してください。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・校内研修の 1 つとして位置づけ、授業を公開する。授業の後には、意見交流の場を設ける。
- ・他教科との関連を意識し、連携を図る。
- ・生徒が調べてきた日本食に似ている海外の料理を給食の献立に採用してもらい、その料理の内容や SDG s のつながりについて校内放送で紹介する。
- ・生徒の作品を給食時の校内放送や校内掲示などで紹介すると同時に、学校便りやホームページにも掲載し、日本食と世界とのつながりそして SDG s について考えるきっかけを広く知らせる。

【自己評価】

12. 苦勞した点	※学習活動が展開する中での苦勞や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。
13. 改善点	※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。

14. 成果が出た点	
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応，感想文，作文，ノートなど）	※この單元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性，説得性の高いものになります。
16. 授業者による自由記述	

参考資料：

『Mundi』2020 年 1 月号 P8～25 独立行政法人国際協力機構

『Mundi』2016 年 1 月号 P4～15 独立行政法人国際協力機構

『Mundi』2020 年 1 月号 P6～7 独立行政法人国際協力機構

『世界を変えた 15 のたべもの』 テレサ・ベネイテス 株式会社大月書店 2020

『どうなってるの？世界と日本』第 2 版 独立行政法人国際協力機構

<https://macrobiotic-daisuki.jp/ebisuki-149659.html>

<https://www.alic.go.jp/content/001162823.pdf>

https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html

<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/tikusan/attach/pdf/190419-20.pdf>

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/

<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/パコラ>

https://www.maff.go.jp/chushi/jikyu/pdf/140910_jikyu_kids.pdf

<http://www.cjc.or.jp/school/d/d-2-1.html>

<https://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2016/oct/wrepo01.htm>

<https://www.flour.co.jp/news/article/140/>

<https://www.jacom.or.jp/archive01/document/tokusyu/toku148/toku148w04102607.htm>

<https://jp.mongabay.com/2014/11/トロール漁業%EF%BC%9A破壊的な漁法で海底が砂漠化/>

https://www.alic.go.jp/joho-d/joho08_000152.html

<http://brasil-navi.net/recipe/recipes/%E3%82%B3%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%A3coxinha/>

<https://japotina.com/archives/tamal.html>

[中華人民共和国 | 比べてみよう！世界の食と文化 | 株式会社 明治 - Meiji Co., Ltd.](#)

※單元を構想，実施する上での教師のための参考資料，学習者のための参考資料，ウェブサイト，データリソースなどを紹介してください。